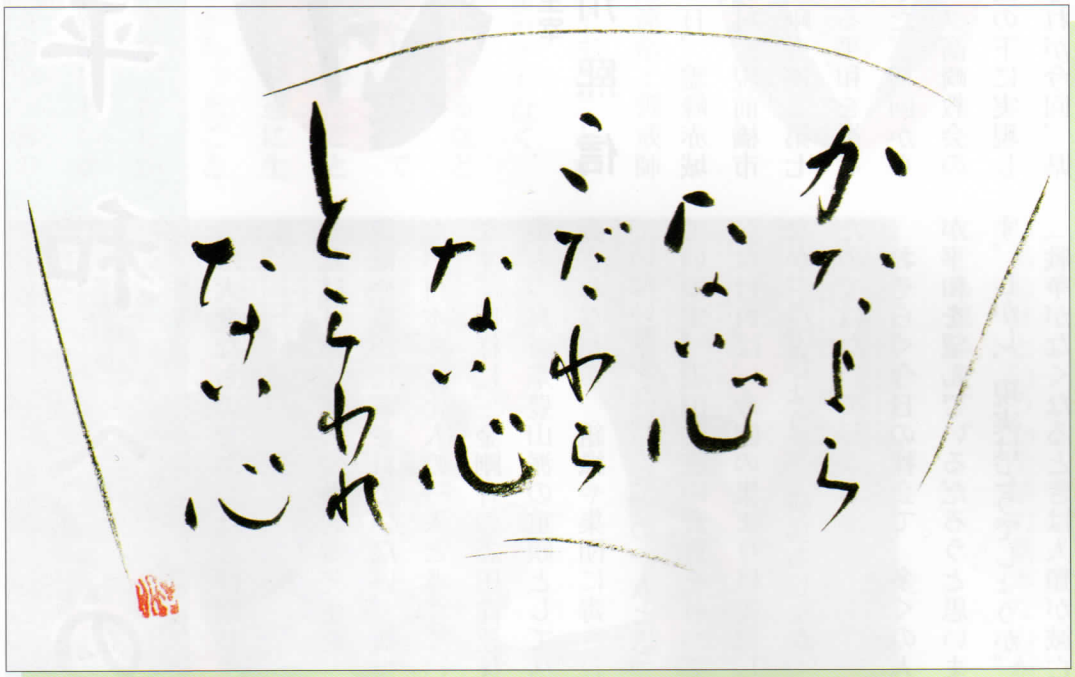
道

発　行　真言宗豊山派 霊松山歓喜院
金剛寺
〒371-0241　前橋市苗ケ島町1147
TEL 027(283)6918　FAX 027(283)6815
http://www.raijin.com/kongouji/



ホームページ・機関誌「道」を拝読して

神藤吉重

四年間の戦場生活から生き長らえて無事復員した私は、元の教壇に戻る為に東京女子大学の特別聴講生となり、焼き直しの学習を始めました。そこで、西尾教授の「道元、正法眼蔵」に取り組んだのです。宗教哲学的内容は難解でした。然し、此処で学んだ「愛語」の精神が心に刻み込まれ、今も生きているのです。慈愛の心、顧愛の心、愛語には廻天の力がある事を知り、教壇に立つ自信を得たのです。

今回、宗教法人金剛寺のホームページを披き繰返し拝読するうちに、その存在の偉大さに気付いたのです。

「此れは単なる仏事、セレモニーの場ではない。住職（先代賢尚師、現洋遠師）の高い志のもとに繰り広げられた地域教化活動の基地、地域社会に機能する学苑である。然も現代学校教育の及ばざる内容を補完し、人間教育を展開し、より充実した全人教育実践の場である。」と。

機関誌「道」は、活字・視覚を媒介として、平易に、且つ、親しみを盛り、地域教化の道案内役として、高邁な仏教の宗旨をわかり易い言葉で語りかけている。

愛語――世の中、天地をひっくり返す程の力を持っているのです。

〈筆者は宮城小学校長退職後、母校群馬大学と群馬女子短大で講師を勤め教員養成に当った。著書や研究論文もある。〉

平和への道

七施精舎主宰
浅川熙信

二〇〇四年九月十一日、霊峰赤城山を背にした、旧宮城村（現前橋市苗ケ島町）の古刹・金剛寺にて第七回目の「諸宗教者による平和を祈る集い」が開催されました。初回から六回までは、カトリック高崎教会の皆さまの全面的な奉仕の下に実現してきた集まりです。それが今回、県内では初めてだと思われますが、仏教寺院での開催となりました。いかに古刹・名刹であっても、やはり運営に関して、また参加者や諸々について、住職や大黒（住職夫人）の心労は大変なものであったと拝察します。

私は、建築家の安藤忠雄先生を、組織や集団に毒されていない、数少ない日本の文化人の一人と考えています。同様に、金剛寺の志田洋遠住職も、真言宗豊山派の重鎮として活動されながら、組織や集団に毒されていない数少ない宗教者の一人と思っています。志田住職の資質をもってしなければ、今回の集まりは実現しなかったでしょうし、成功もしなかったのではないでしょうか。

おそらく今日の社会で、多くの人が平和を望んでいるだろうと思います。しかし、現実はどうでしょうか。

「戦争がなくなるときは人類が滅亡するとき」と語られ、その言葉が説得力さえ持っています。戦争で闘っているときに、自分のやっていることは誤っていると思う人は少ないでしょう。皆が皆、自分たちは正しいと信じ、正義の名の下に戦争を起こし、人を殺しているのです。殺し合いにまでいかなくても、紛争、憎しみ合いは今日の世界では日常化しています。

国家や民族、宗教などを集団としてとらえたり、組織化する考え方の前に、基本はあくまで個と個であり、人と人の関係性なのだと思います。〇〇国、〇〇教、〇〇派、その中にいれば安全で安心できるかもしれません。しかし善良な個々人が集団の陰に隠れたり、組織の中に組み込まれて、やがて集団の論理に引きずられ、思考停止の状態になっていくのを見るのは忍びがたいことです。カルト宗教ではこのことをマインド・コントロールと言いますが、これは決してカルト宗教の世界に限ったことではありません。以前より少なくなってきたとは言え、日本社会の「会社信仰」なども、まったく同じことだと思います。一部の人の立身出世やご都合のために、善良な人たちが利用されるのは、もちろん既成宗教の中にもあると思います。

仏教やキリスト教、イスラム教、ほかにもあると思いますが、他を征服した上に成り立ってきた宗教そのものが、もうその考え方では限界があるのです。宗教者が世界の平和を願うならば、それぞれ民族の素朴な信仰や習俗を尊重する必要があるのです。その地に生きてきた人びとの文化や精神世界に敬意を払うべきです。そこにこそ、本当の人間主義人道主義が根づくのだと思います。釈尊はそうだったと思います。今回の「諸宗教者による平和を祈る集い」で、私が最も強く感じたのは、これらのことです。私たち宗教者はある面、非力で無力かもしれません。しかし組織の論理におもねず、集団の論理に媚びず、手作りで「平和」を一途に念じていく、その思いを普遍化していく道の一端の集まりであったと私は感じています。　合掌

得度式をおえて

早川求法（はやかわぐほう）

さる三月十日私は洋遠僧上御戒師のもと無事得度式を修了することができました。お寺の生まれでもなく、定職ももたない私が仏道に入るなどとんでもないことだとだれも思うでしょう。私の妹も人とかわったことをしないで普通に仕事して普通に生活すればいいと、なぜかわったことをしたがるのかといいます。たしかに一生懸命仕事して家族としあわせにくらせていけるというのが一番のしあわせというか生活の基本なのかなとも思います。

私は子供の頃お坊さんは死をイメージし縁起の悪いものと思っていましたがここ何年か、何人かのお坊さん方との御縁を頂く機に恵まれ気づいたのです。このお坊さん方はみんな人のためにも一生懸命なのです。死ではなく生のイメージです。

もちろん私たち普通の人たちも人のためにがんばっている人はいっぱいいます。みんな同じ人間なのですがなにか強い力を感じる仏様、そういうお坊さん方に私のために得度式をおこなっていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがたいです。また参列してくれた方々にもありがたく感謝の思いです。

今まで自信もなく気弱な私でしたが本物のお坊さん方に認めて頂けたのですから仏様の御導きと思い精進していこうと思います。

※得度式…仏門に入ること。

得度式に出席させて頂いて

佐波郡玉村町
山本幸代

此度真言宗徒でもない私の様な素人が、多分今回が最初で最後ではないかと思う程非常に珍しい得度式に偶然出席させて頂き、とても貴重な体験をさせて頂けました。儀式中は無我夢中で一瞬にして時間が過ぎてしまいました。又、今回得度された方は一般の職業を続ける中で決意された様で、とても真似出来ぬ程すばらしい決意だと感じました。そして直会にも出席させて頂き、更にその後の座談会的な場にも御縁を頂き、和やかな雰囲気の中でも日頃は殆ど見る事の出来ない祈祷文字まで見せ

て頂き、とても寒気が致しました。

又、得度式とは別ですが「諸宗教者による平和を祈る集い」「宗教者と日本共産党との対話の集い」「生と死のフォーラム」等の行事があり、様々な世界の方々と仲良く触れ合われている事に魅力を感じ、その様な器の広い方々と御縁を頂ける自分がとても嬉しく感じます。今後も更にその様な方々と御縁を頂き私自身の世界を広げて行きたいと同時に、器の広い方が更に増える事を切望します。又、私の身辺ではまだまだ理想と現実という殺伐とした状況ですが、洗脳されぬ様にしたいと同時に、宗門宗派、職種、身分、年齢、性別、人種国境等々一切の垣根を超えた真の世界平和が一日も早く到来する事を祈らずにはおられません。偶然にも同じ玉村町在住の早川求法様、真におめでとうございました。御健闘をお祈り申し上げます。

合掌

真言宗の教え

真言宗の教えは、弘法大師によって完成されました。その教えは、自分自身が本来持っている「仏心（ぶっしん）」「限りない人格」「さとりの世界」を、「今このとき」に呼び起こす即身成仏にあります。

それは、自分自身を深く見つめながら、「仏のような心で」「仏のように語り」「仏のように行う」という生き方です。

この教えをもとに、人々が共に高めあっていくことで、世界の平和がもたらされ、理想とする密厳仏国土（みつごんぶっこくど）が実現するのです。

ご本尊

真言宗のご本尊は大日如来（だいにちにょらい）です。大いなる知慧（ちえ）と慈悲（じひ）をもって、すべてのものを照らす根本の仏さまです。

私たちが手を合わせるさまざまな仏さまは、すべて大日如来の身を変えた姿（応化身（おうけしん））であり、それぞれにご縁のある身近な仏さまへの信仰は、すべて大日如来につながっているのです。

宗祖　弘法大師（空海）

あらゆる恵みに感謝して

合掌

幼い頃、「のんのさんに、ナムナムと手を合わせようね。のんのさんにちゃんとお参りするといい子になるからね」と、おじいちゃん、あるいはおばあちゃんに教えられた記憶はないでしょうか。

お仏壇の前に座ったとき、お寺にお参りにいったとき、私たちはみな自然と、両の手を合わせます。そして仏さま、ご先祖さまへ感謝のこころをささげ、しあわせを祈ります。

合掌

手と手を合わせることを合掌といいます。合掌は、もともとはインドの習慣であり、それが日本に伝えられたといわれます。

インドの人たちは、今でも人に出会いますと「ナマステ」といって、お互いに手を合わせます。「あなたを敬います」という意味ですが、今では「おはよう」「こんにちは」「いただきます」といった意味に使われています。

インドでは、右手は悟りの世界、すなわち仏さま、左手は迷いの世界、すなわち人間を表わします。そして、右の手と左の手を合せることにより、私と仏さまが一体となったことを表わします。

右ほとけ　左われぞと合わす手の
中ぞゆかしき　南無の一声

という歌がありますが、合掌する意味と、仏さまへの感謝の気持ちがこめられています。

合掌にはさまざまなすがたがありますが、真言宗では「金剛合掌」というかたちが用いられます。

両手の指を互いに組み合わせ、右手の指が左の上にくるようにします。仏さまと私がしっかりときづなを結び、離れない、金剛石（ダイヤモンド）のように堅い信仰の意味を表します。

感謝のこころ

私たちはご飯を食べる前「いただきます」と手を合わせます。食べ終わって「ごちそうさま」と手を合わせます。

今や、私たちの生活は豊かになり、まわりには物が満ちあふれています。ないものはないといっていいほどです。しかし、こうした生活に慣れ、これを当り前と思っている人もたくさんいるのではないでしょうか。感謝するこころが家庭からも社会からも薄れつつある今、「ありがとう」「おかげさまで」「すみません」など、普段の生活の中で、いつも使いたいものです。

仏さま、ご先祖さまへ、今の幸せを感謝すると共に、日頃の生活の中で、いつでもどこでも、だれにでも手を合せられるような、感謝のこころを大切にしたいものです。

行事案内

お寺の本堂でお琴とソプラノのコラボレーションを楽しもう

お琴とソプラノジョイントコンサート「仏教と鳴らし物」

月　日　平成17年9月10日（土）
時　間　午後6時～
場　所　真言宗豊山派『金剛寺』
☎　027－283－6918
会　費　1人　1,000円

法話　第二話

うらを見せ　おもてを見せて　ちるもみじ　「良寛」

無邪気に子どもたちと遊びながら書や詩歌をたくさん残した、江戸時代の良寛さんの一句です。良寛さん七十四歳の句と言われております。

不治の病にかかり、「死」を悟った良寛さんに、最後まで看病に当たった貞心尼様が、「生き死にの界はなれて　住む身にも　さらぬ別れのあるぞかなしき」と歌を詠まれたのに対して、お返しになったものと言われております。貞心尼様は、仏の世界で、また会える教えの中で、日々過ごしていても「別れ」は、悲しく辛く寂しいものだと嘆いたのではないでしょうか。良寛様の自然体の生きざまを表現された一句です。

編集後記

昨年夏（お盆）の「道」創刊号が縁で、多くの方々より、お便りをいただき深謝致します。

昨年九月に開催致しました「諸宗教者による平和の集い」には、県内外より多勢の方々が宗教を越え来寺されました。この事は、各新聞に取り上げられ、大きな反響があり、「平和」を願う参加者の姿に胸熱くなる思いでした。

小寺の「ホームページ」も今月で一万六千五百人を越えるアクセスがあり、多くの方々に御覧いただき感謝の気持でいっぱいです。又、「メール相談室」に悩める子供達（保護者）から相談があり、その必要性を痛感致しました。

今回、特別寄稿に「神藤吉重先生、浅川熙信師」をお願い致しました。本年三月に責任役員の御臨席をいただき実施致しました、「得度式」の受者「早川求法君」と出席者を代表して、「山本幸代さん」の二人に投稿頂きました。厚かましいお願いを快諾して頂いた各位に敬意と感謝申し上げます。　住職記

主な布教・講演会

・青森県八戸市階上町に於て、地元教育委員会・石鉢小学校主催
演題『大人の責任と反省』

・浄土宗児童教化連盟主催
演題『青少年の現状と　児童教化の必要性』

・前橋市文京地区高齢者教室『生きがい塾』
演題『地域に生きる高齢者』

庫裏だより

★孫（女子）が早いもので一歳十一ケ月になります。会話も出来るようになり、益々可愛さが増してきました。親バカでなく爺婆バカです。

★ウコッケイの卵五個孵化し可愛い盛りです。全部で十二羽になりました。それとジュウシマツ一羽を飼っております。子育てを見ていますと教えられる事が有ります。

★大黒（住職妻）の父の三廻忌が無事に終わりました。親が居てこそ子が居る、当たり前の事に感謝の一日でした。